

町民の皆さまこんにちは。今はお盆を迎える準備で大わらわかと存じます。いつもきれいにされているお墓を見る度に、ご先祖様や年長者を敬い、大切にされる文化を素晴らしいと感じ入っております。

さて、そんな素晴らしい文化を有する錦江町を次の世代にきちんと渡すためのプロジェクトで、当町初の試みであった『錦江町版百人委員会(実証実験)』について報告します。

1. 錦江町版百人委員会(実証実験)とは？

本委員会は社会の『担い手』が急激に減少していく、世界でも例を見ない『右肩下がり状態』に立ち向うため、年齢や立場に関係なく、町民さんの多様な考え・経験・知見等を未来づくりに積極的に活用し、実践するため、先進自治体の鳥取県智頭町を参考に本年3月から実証実験として5ヶ月間実施しました。

2. どんな町民さんが参加したの？

昨年度、町広報を通じ2度公募した結果、8名の多様な経歴を有する町民さんから応募いただきました。

- ◆性別：男性4名・女性4名
- ◆年齢層：20代1名・40代4名・60代3名
- ◆職種：農業経営者2名・会社役員2名・会社員1名・無職(リタイア)3名
- ◆参加者氏名(五十音順)
 - ・井浦 准子さん(馬場)・大山 洋恵さん(城元)
 - ・新田 真弓さん(馬場)・徳永 豊さん(神川)
 - ・野口 大樹さん(田代麓)・濱田 隆介さん(田代麓)
 - ・前田 珠さん(城元)・前田 正人さん(川原)

3. 話し合いの内容とは？

- ◆話し合いテーマ：未来志向な《ふるさと納税》の『使い道(使うべき対象)』を考える
- ◆テーマを《ふるさと納税》とした理由

町内事業者の多大な努力によって成立している《ふるさと納税》で集めた資金だからこそ使い道や使い方を町民さんと共に決めることが『住民参加型地域づくり』であるという思想に基づいています。
- ◆『使い方』では無く、『使い道(使うべき対象)』を話し合った理由

『使い道』を決めることは即ち、『誰』の為に使うべきか、『何』の為に使うべきか、使った後に『どんな風』になって貰いたいかを決めることを意味します。ちなみに、『使い方』は『理念』に近づけるための『手段』です。今回は『使い方』を決める為に重要な、『使い道(使うべき対象)』について話し合うことにしました。

◆委員会での話し合いの特徴

- ・立場や年齢に関係なく自由に意見を出し合うこと、相手の話を傾聴し尊重すること。
- ・議長や司会など、いわゆる仕切り役や調整役がないこと。

4. 『6つの使うべき対象』提言とは？

◆共通確認事項

- ・ふるさと納税制度で集まった寄付金を町の未来づくりの為に使うことを強く意識して提言する。

◆『町民』向けの『使うべき対象』と提言理由

- ・**子ども向け**：まちの未来づくりを担う貴重な存在だから。人口減少をくい止める源泉だから。
- ・**若者を中心とした社会の担い手**：この層が町の未来づくりを担う中核的な存在だから。
- ・**事業者**：安定的な雇用こそ『社会の担い手』層を増やすために重要だから。
- ・**高齢者**：元気なうちは地域に支えられる側から『地域を支える側』に回ってもらう必要があるから。

◆『都市部住民(未来の錦江町の仲間になる可能性がある方々)』向けの『使うべき対象』と提言理由

- ・**来訪者(観光を含む多様な目的)**：町にとって投資者・支援者そして移住者になり得るから。
- ・**移住希望者(町出身者の地元回帰を含む)**：社会の担い手減少を食止め、新しい風を吹き込めるから。

上記で『町民』と『都市部住民』に大別しています。志の高い移住者誘致に成功している地域では、観光客を含む来訪者や移住希望者に具体的な取組みへの参加などを通じて町の理念や志を共感して貰い、少しずつ絆を深めながら移住へと繋げています。従って、極力すぐに展開せねばならない『町民向け』施策とは異なり、中長期的視点で取組むべきものであることから、明確に区別をしました。

5. 『使うべき対象』提言を受け、町民の皆さまにお願いしたいこと

《第2回錦江町未来想像・創造コンテスト》のテーマを《未来志向なふるさと納税の『使い方』》とします。提言した『使うべき対象』を踏まえ、志が高く、未来志向な『使い方』提案がたくさん集まることを大いに期待しております。

※詳細は9月下旬に全世帯配布予定の『募集パンフレット』をご覧ください。

最後に、本事業参加者の皆さまに対し、心より御礼申し上げます。ありがとうございました。